

■2020年3月期通期業績予想の修正について

Q1：収入と費用の変更点について

A1：2019年10月31日公表との増減額と内訳

（2020年1月に発生した新型コロナウイルス関連肺炎の影響は織り込んでおりません）

収入 **▲300億円**

国際旅客収入 **▲110億円**（主な要因） ①日本発業務需要の鈍化
②2019年10月の台風による欠航
③中国線・欧州線の需給バランスの悪化

国内旅客収入 **▲30億円**（主な要因） ①2019年10月の台風による欠航

貨物郵便収入 **▲50億円**（主な要因） ①国際貨物・郵便を中心に需要の伸び悩み

その他収入 **▲110億円**（主な要因） ①受託ハンドリングの減少
（特に地方空港での韓国キャリアのハンドリング）
②整備受託収入の減少

費用 **変更なし**

整備費などの一部費用の上振れを、継続的な費用削減努力などによって打ち返し、2019年10月31日公表値から変更なし。

■国際線日本発業務需要について

Q2：国際線日本発業務需要の状況について

A2：2019年夏頃から日本発ビジネス需要を中心に旅客需要が伸び悩んでいたが、北米線を中心に底打ちの兆しが出てきている。

但し、新型コロナウイルス感染拡大の状況は日々変化しており、慎重に注視して、適切な対策を講じていく。

■国際線の中国線について

Q3：中国線の状況について

A3：（2020年1月31日時点）中国線の需給バランスが悪化していた中、新型コロナウイルス感染拡大が発生。中国線の旅客収入の割合は国際線旅客収入全体の約10%です。状況を慎重に見極め、マイナス影響を軽減するため、一部路線、便数の見直しの検討に着手している。

(単位：億円)	2018年度		2019年度		前年差	予想増減額
	実績	前回予想 ⁽¹⁾	今回予想	前年差		
営業収益	14,872	15,160	14,860	▲12	▲300	
国際旅客収入	5,306	5,240	5,130	▲176	▲110	
国内旅客収入	5,280	5,470	5,440	+159	▲30	
貨物郵便収入	1,000	960	910	▲90	▲50	
その他収入	3,284	3,490	3,380	+95	▲110	
営業費用 ⁽¹⁾	13,111	13,460 (13,360)	13,460 (13,360)	+348 (+248)	-	
燃油費	2,512	2,510	2,510	▲2	-	
燃油費以外 ⁽¹⁾	10,598	10,950 (10,850)	10,950 (10,850)	+351 (+251)	-	
営業利益 ⁽¹⁾	1,761	1,700 (1,800)	1,400 (1,500)	▲361 (▲261)	▲300	
営業利益率 ^(%) ⁽¹⁾	11.8%	11.2% (11.9%)	9.4% (10.1%)	▲2.4pt (▲1.8pt)	▲1.8pt (▲1.8pt)	
経常利益	1,653	1,710	1,450	▲203	▲260	
当期純利益 ⁽²⁾	1,508	1,140	930	▲578	▲210	
ROIC ^(%) ⁽¹⁾ ⁽³⁾	9.5%	8.6% (9.1%)	7.1% (7.6%)	▲2.5pt (▲1.9pt)	▲1.5pt (▲1.5pt)	
1株当たり配当金額	110円	110円	110円	-	-	
中間配当	55.0円	55.0円	55.0円	-	-	
期末配当	55.0円	55.0円	55.0円	-	-	